

世界が進むチカラになる。



グラフで見る関西経済 (2024年2月)

2024年2月27日

調査部 主任研究員 塚田 裕昭

今月の景気判断～足踏み状態となっている

【今月のポイント】

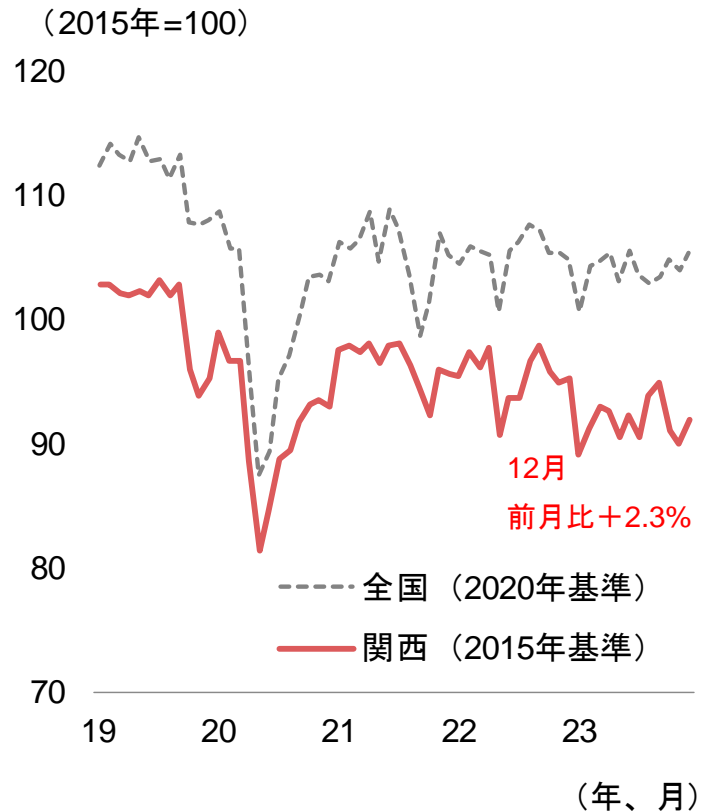
- 関西経済は、足踏み状態となっている
- 12月の生産は、3カ月ぶりに前月比プラスとなったが、均してみると弱含んでいる
- 1月の実質輸出は前月比+0.1%と小幅ながら2カ月連続で上昇したが、均してみると弱い動きとなっている
- 個人消費は持ち直しの動きがみられる。先行きは、所得環境の改善により持ち直しの動きが続こう

項目	現状
景気全般	足踏み状態となっている
生産	弱含んでいる
輸出	弱い動きとなっている
設備投資	持ち直している
雇用	持ち直しの動きがみられる
賃金	持ち直しの動きがみられる
個人消費	持ち直しの動きがみられる
住宅投資	弱含んでいる
公共投資	高めの水準となっている

生産

12月の鉱工業生産(関西)は前月比+2.3%と3カ月ぶりにプラスとなったが、均してみると弱含んでいる。電子部品デバイス、電気機械、化学、汎用・生産用・業務用機械など主要業種で増加したが、持続性には懸念が残る。

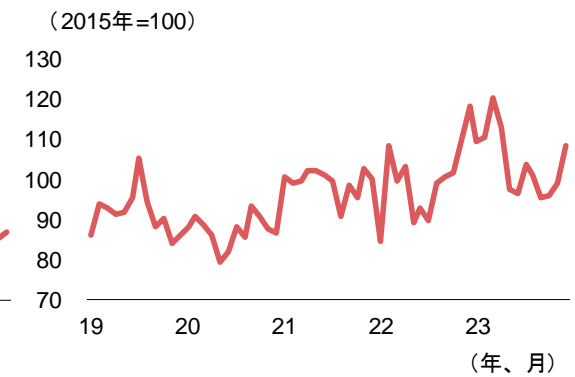
鉱工業生産指数



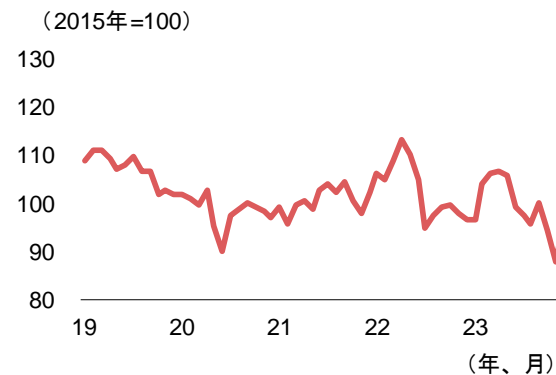
電子部品デバイス



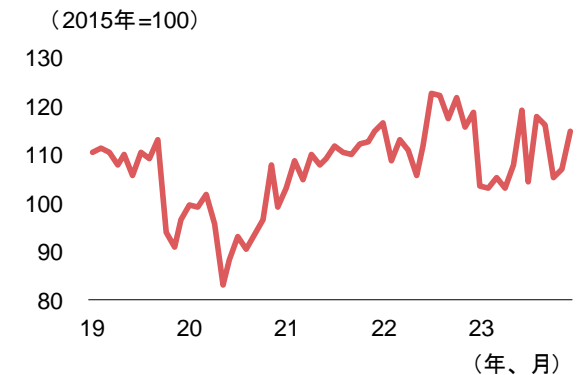
電気機械



化学



汎用・生産用・業務用機械



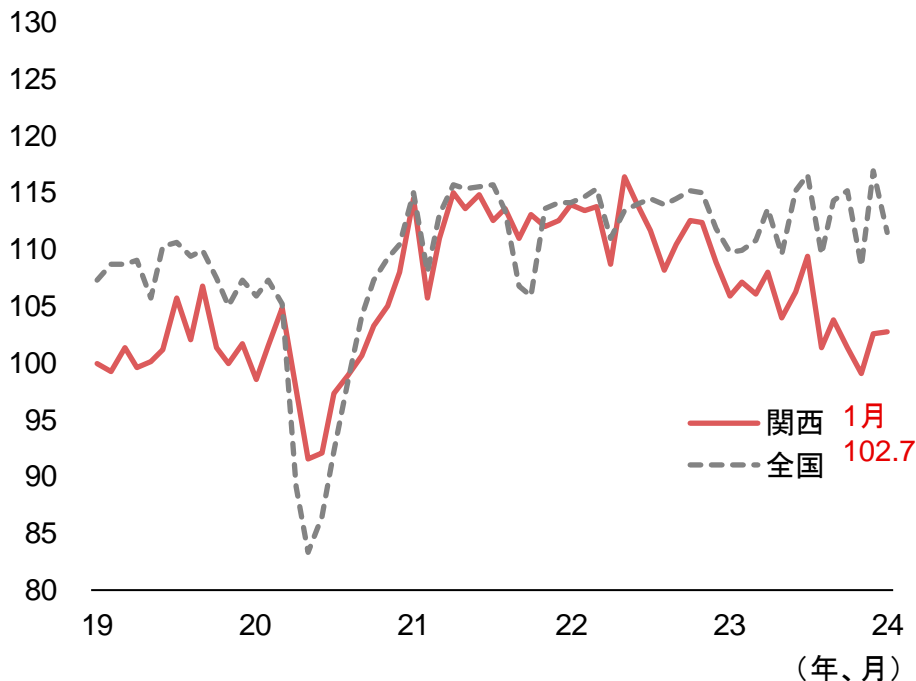
輸出

1月の実質輸出(季節調整値)は、前月比+0.1%の102.7と小幅ながら2カ月連続で上昇したが、均してみると弱い動きとなっている。

名目輸出額(1月)は9カ月ぶりに前年を上回った。地域別では、EUが減少したが、アジアが13カ月ぶりに前年比で増加し、米国も増加した。品目別では、鉱物性燃料、無機化合物が減少、半導体製造装置、医薬品が増加した。

実質輸出指数(季節調整値)

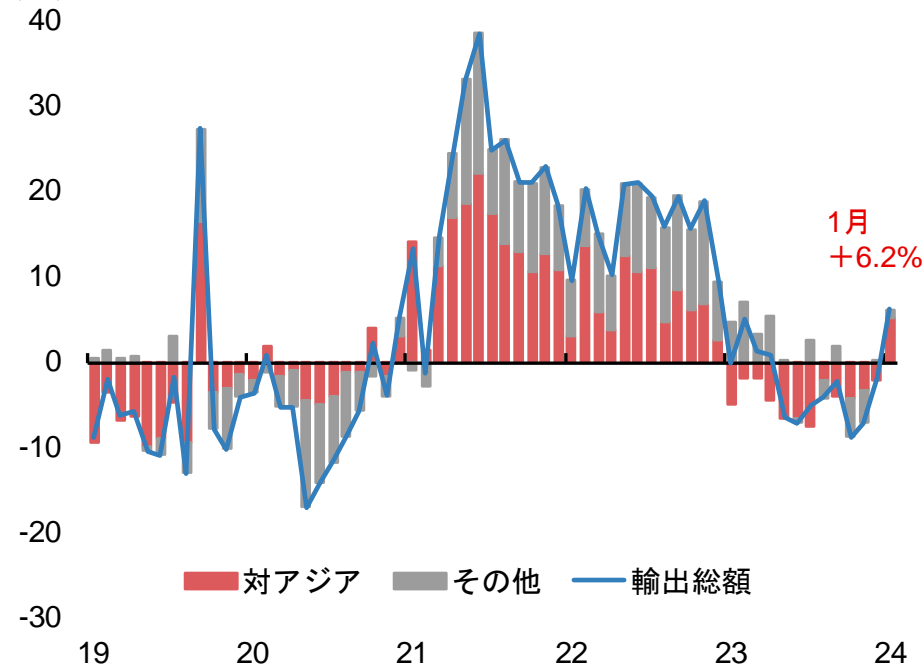
(2020年=100)



(出所)日銀大阪支店「実質輸出入」

名目輸出(前年比、寄与度)

(%)



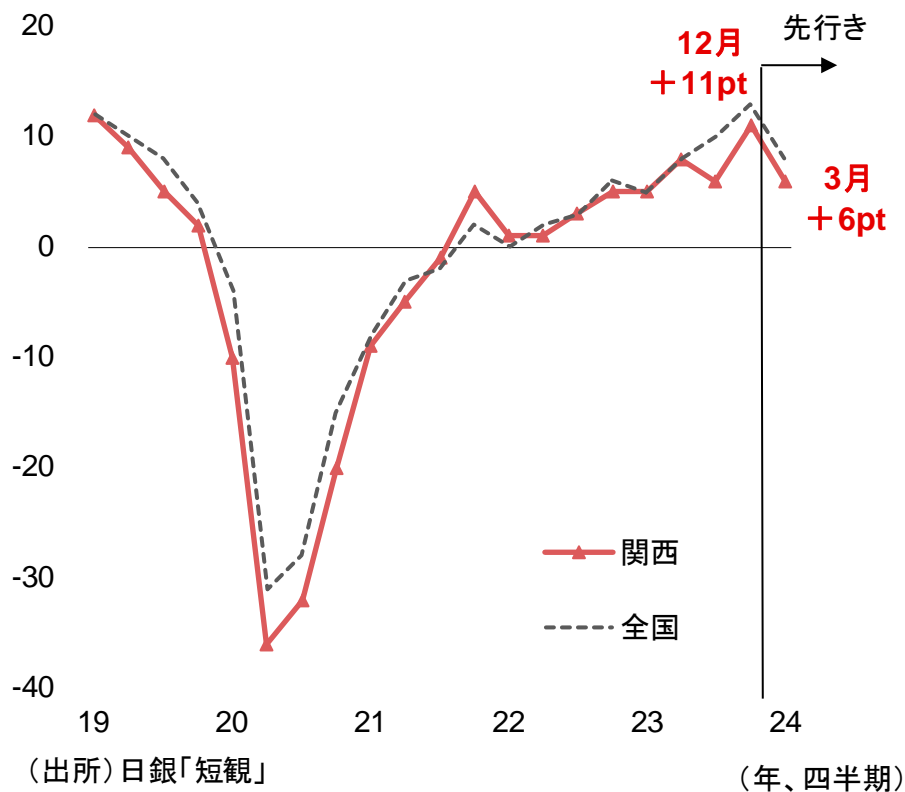
(出所)大阪税関「近畿圏貿易概況」

(年、月)

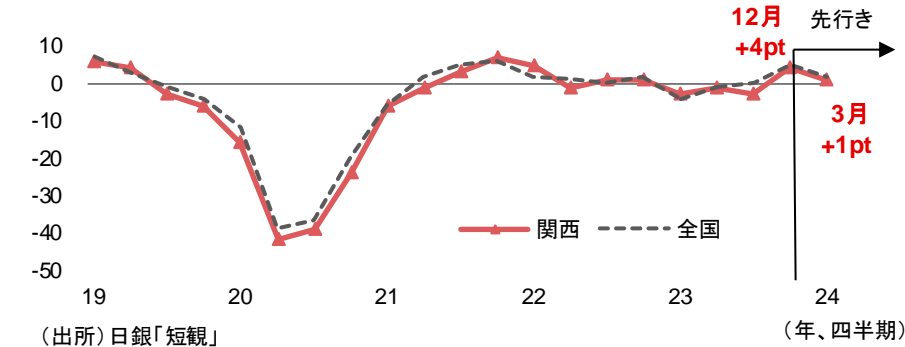
企業景況感(日銀短観) ※以下は12/13公表の12月調査。3月調査は4/1公表予定

日銀短観12月調査の業況判断DI(「良い」-「悪い」)は、全産業で+11ptと9月調査から上昇。製造業は+4ptと「良い」超に転じ、非製造業も+16ptと上昇した。業種別では、化学が4四半期ぶりに「良い」超に転じ、非製造業では、9月に続きすべての業種で「良い」超となった。先行き(3月)については、製造業、非製造業とも「良い」超ながら悪化が見込まれている。

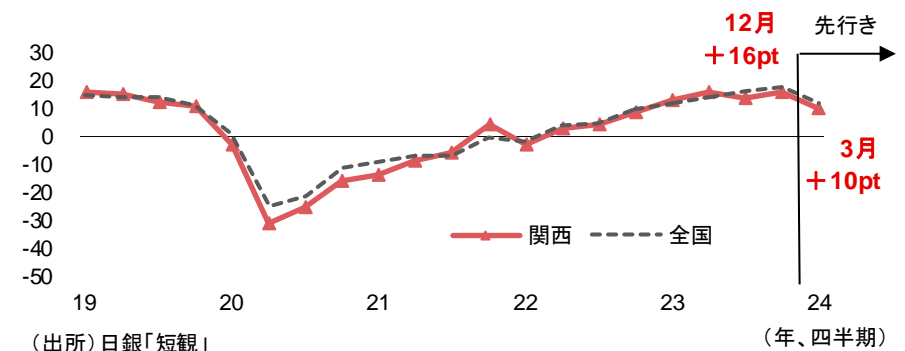
短観 業況判断DI「全産業」



同 製造業



同 非製造業

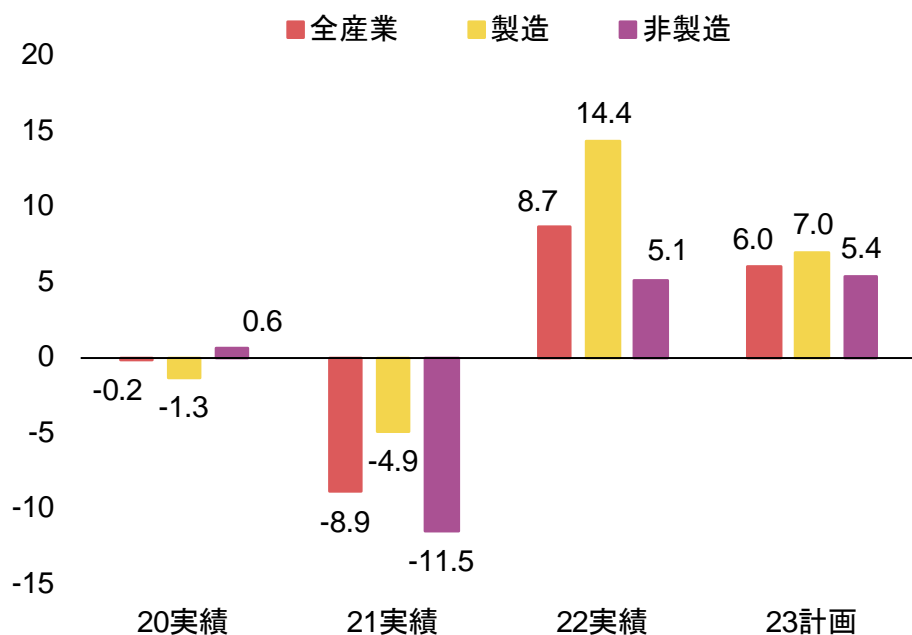


設備投資 ※以下は12/13公表の12月調査。3月調査は4/1公表予定

日銀短観12月調査によると、23年度の設備投資は前年比+6.0%と、9月調査から下方修正となったが、金属製品、輸送用機械、食品・飲食サービスなど多くの業種で前年比2桁の大幅増が見込まれている。規模別では、中小企業が減少を見込む一方、大企業、中堅企業で増加が見込まれている。

設備投資 実績・計画

(前年比、%)



(出所)日銀大阪支店「短観」

(年度)

(注)設備投資は、含む土地投資額

設備投資額(前年比%)

	22年度 実績	23年度計画		
		今回調査	(前回調査との差異)	前回調査
全産業	8.7	6.0	(-4.0)	10.0
製造業	14.4	7.0	(-4.9)	11.9
非製造業	5.1	5.4	(-3.3)	8.7

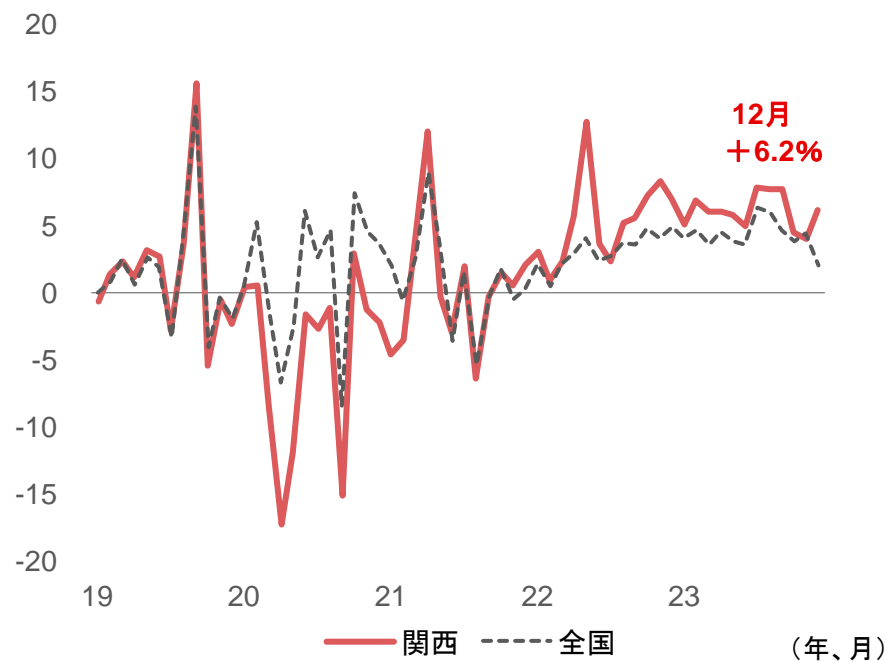
個人消費(小売売上、自動車販売)

12月の小売販売額は前年比+6.2%と27カ月連続でプラスとなった。先行きは、物価上昇の影響が懸念されるが、所得環境の改善により持ち直しの動きが続くとみられる。

1月の新車販売は、前年比-9.2%と17カ月ぶりにマイナスとなった。ダイハツの出荷停止の影響で軽自動車、小型自動車が大幅減となった。

小売販売額(6業態計)

(前年比、%)

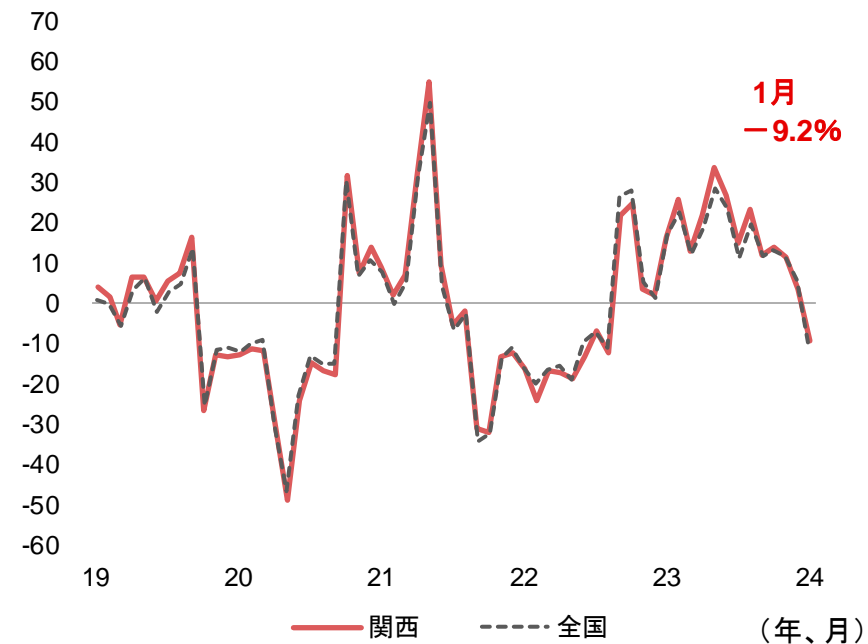


(出所) 経済産業省「商業動態統計」

(注) 百貨店、スーパー、コンビニ、ドラッグストア、家電量販店、ホームセンターの合計

新車販売台数(含む軽)

(前年比%)



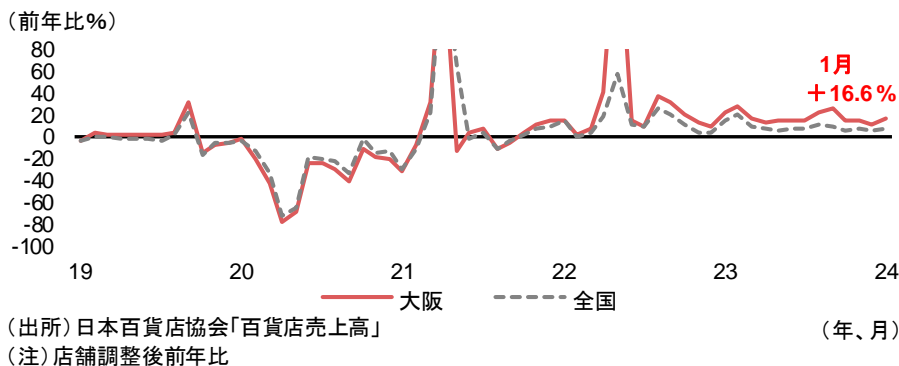
(出所) 日本自動車販売協会連合会「新車販売台数状況」

全国軽自動車協会連合会「軽四輪車新車販売」

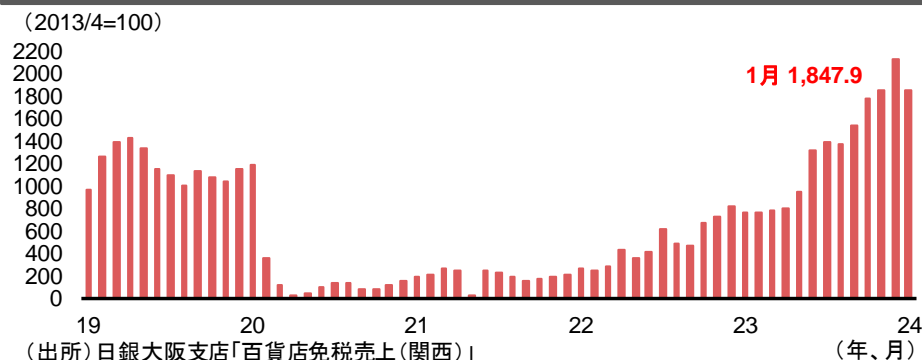
個人消費(業態別)

1月の百貨店売上(大阪)は、来店数増加、高額品販売の好調、インバウンドの増加により前年比+16.6%と28カ月連続でプラスとなった。1月の京阪神百貨店免税売上指数は、訪日外客数の増加、物価上昇の影響もあって、1,847.9と1月としては過去最高となった。

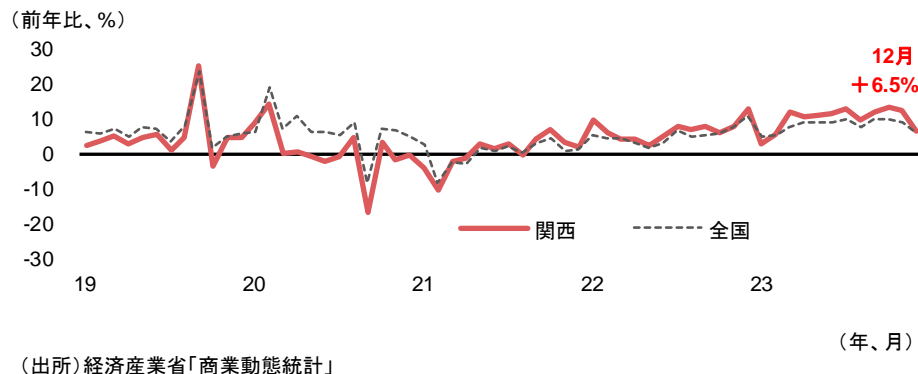
百貨店売上高



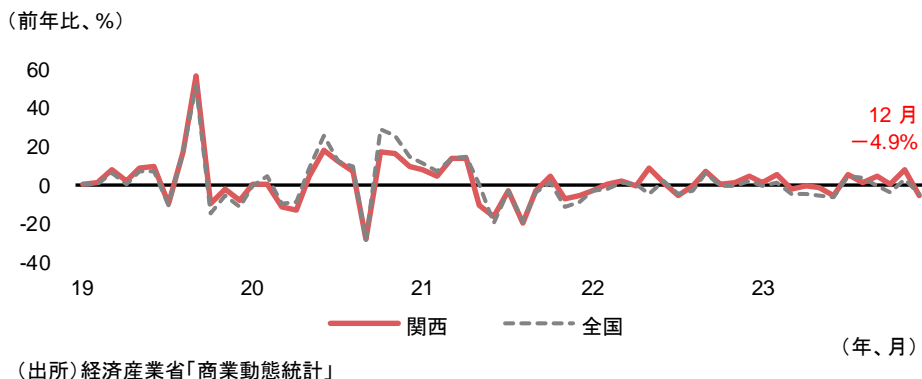
京阪神百貨店免税売上高



ドラッグストア販売額



家電大型販売店販売額

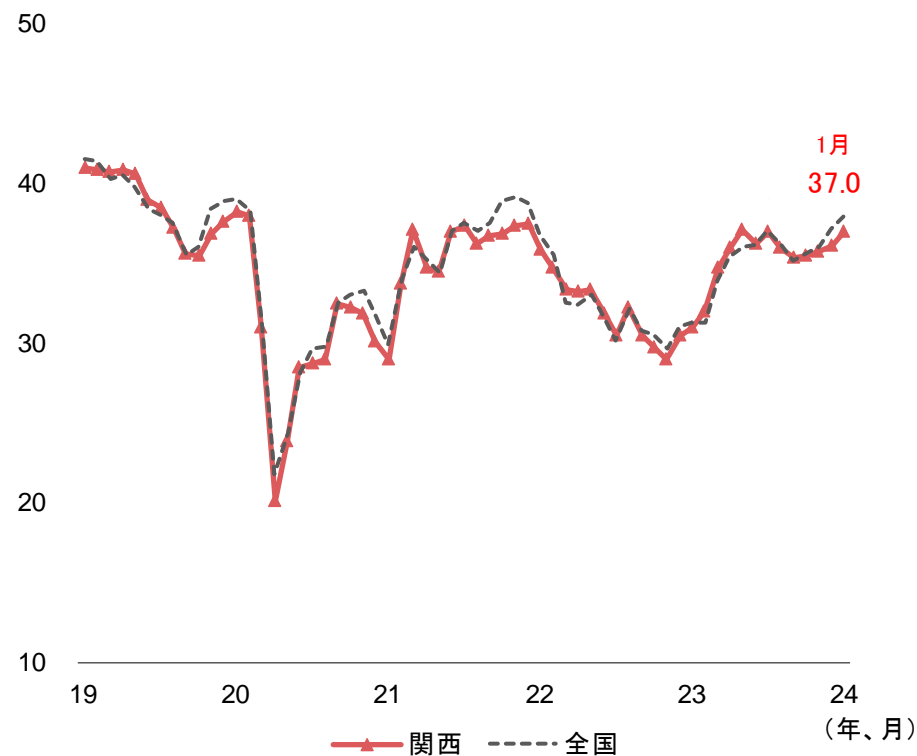


マインド・景況感

1月の消費者態度指数(季節調整値)は37.0 と4カ月連続で上昇した。

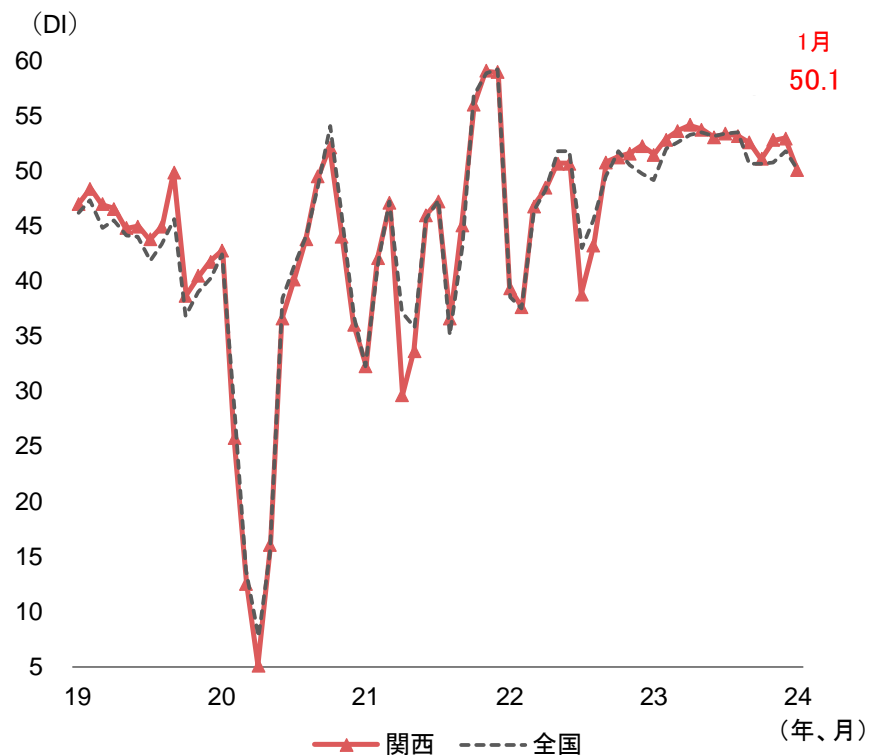
1月の景気ウォッチャー調査(現状判断DI)は50.1と横ばいを示す50を17カ月連続で上回ったが、2カ月ぶりに低下した(今回調査より季節調整値改定)。能登半島地震の影響を指摘するコメントが散見された。

消費者態度指数



(注)関西の季節調整値はMURC試算
(出所)内閣府「消費動向調査」

景気ウォッチャー調査(現状判断)



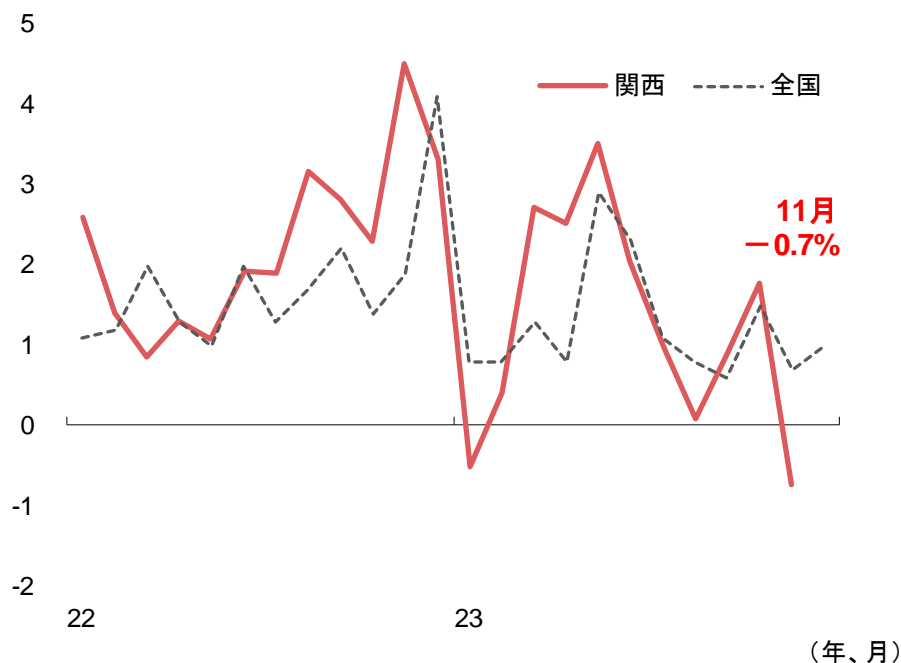
(出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」

賃金・雇用

11月の名目賃金指数は10ヵ月ぶりに前年を下回った(前年比-0.7%)。大阪、和歌山以外が減少した。
 12月の有効求人倍率は1.16倍と前月から小幅低下。求人倍率は全国と比べ低めで推移している。
 23年10-12月期の失業率は2.7%と前期から低下、就業者数は小幅減少となった。

名目賃金指数

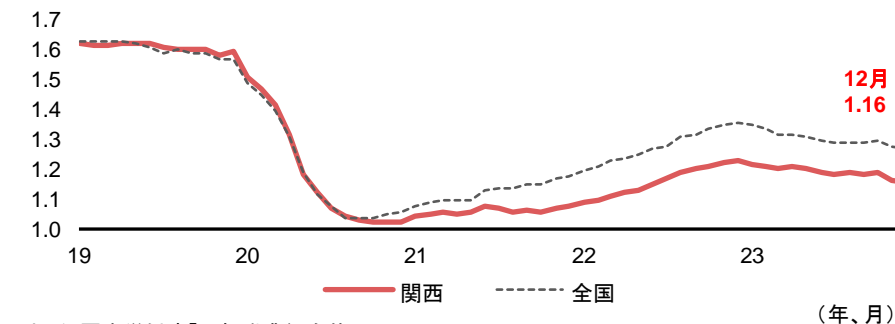
(前年比、%)



(出所) 関西2府4県の名目賃金指数(現金給与総額)、常用雇用者指数よりMURC作成

有効求人倍率(季節調整値)

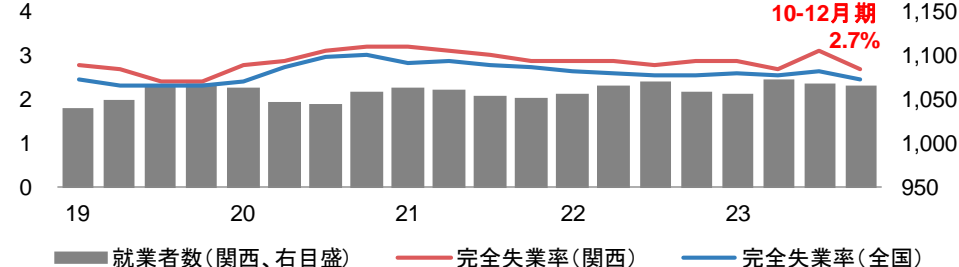
(倍)



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」

失業率と就業者数(季節調整値)

(%)

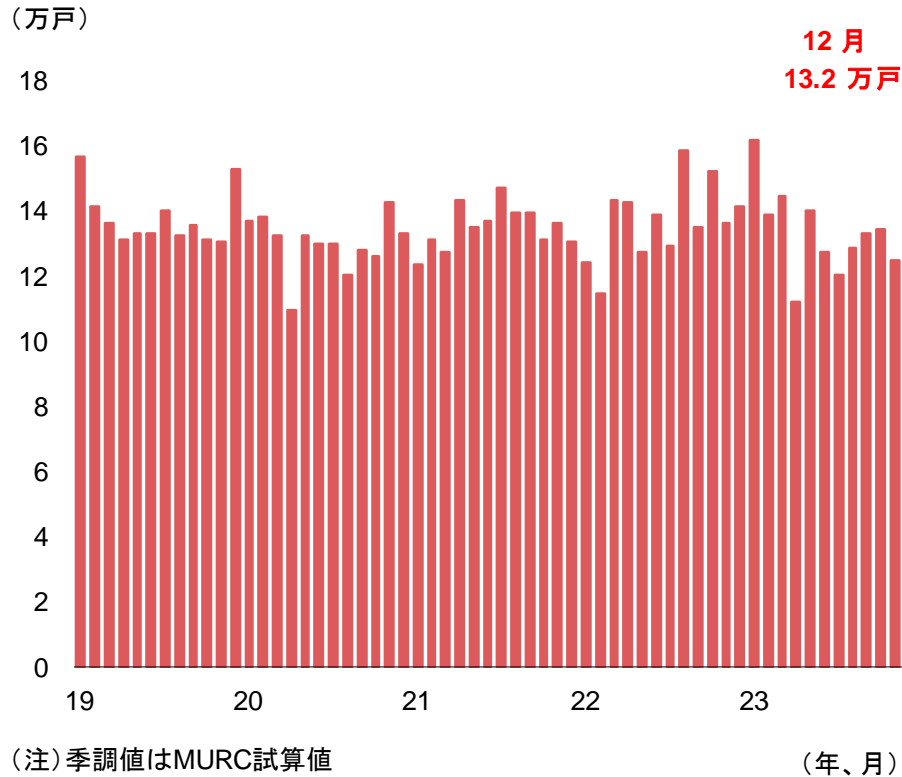


(出所) 総務省「労働力調査」

住宅投資

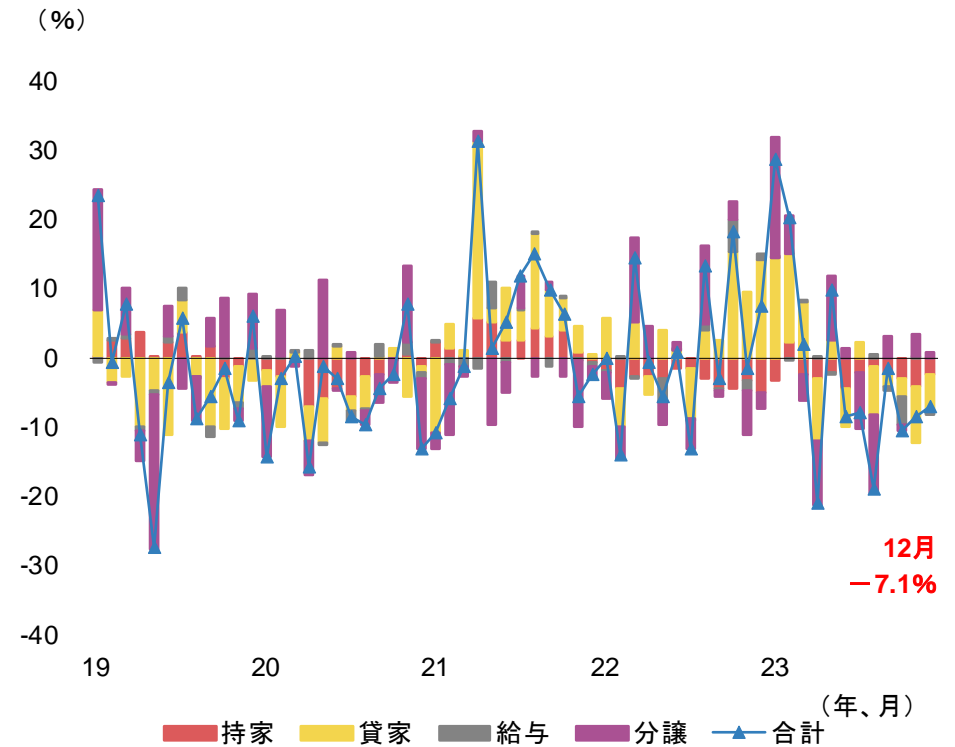
12月の住宅着工は季調・年率13.2万戸と2ヵ月ぶりに前月比で増加した。前年比では、分譲マンションが増加したが、持家、貸家、分譲戸建が減少し、全体で-7.1%となった。

新設住宅着工戸数(季調済年率換算)



(注) 季調値はMURC試算値
(出所) 国土交通省「建築着工統計」

新設住宅着工戸数(前年比)

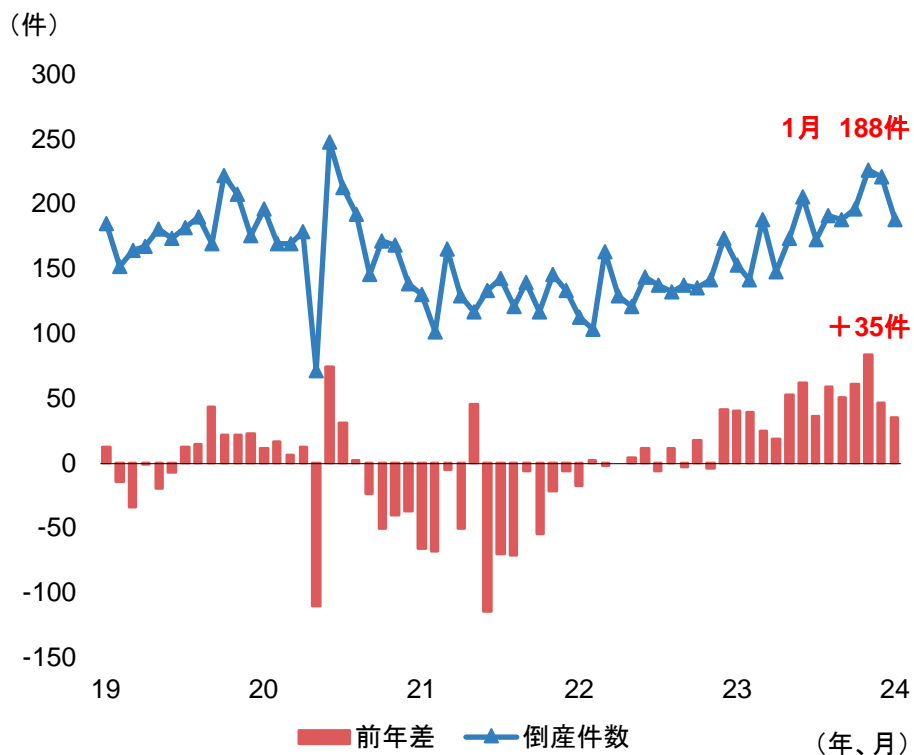


(出所) 国土交通省「建築着工統計」

倒産

1月の倒産件数は188件と前年から35件増加。このところ前年からの増加が続いており、コロナ前程度の水準で推移している。

倒産件数

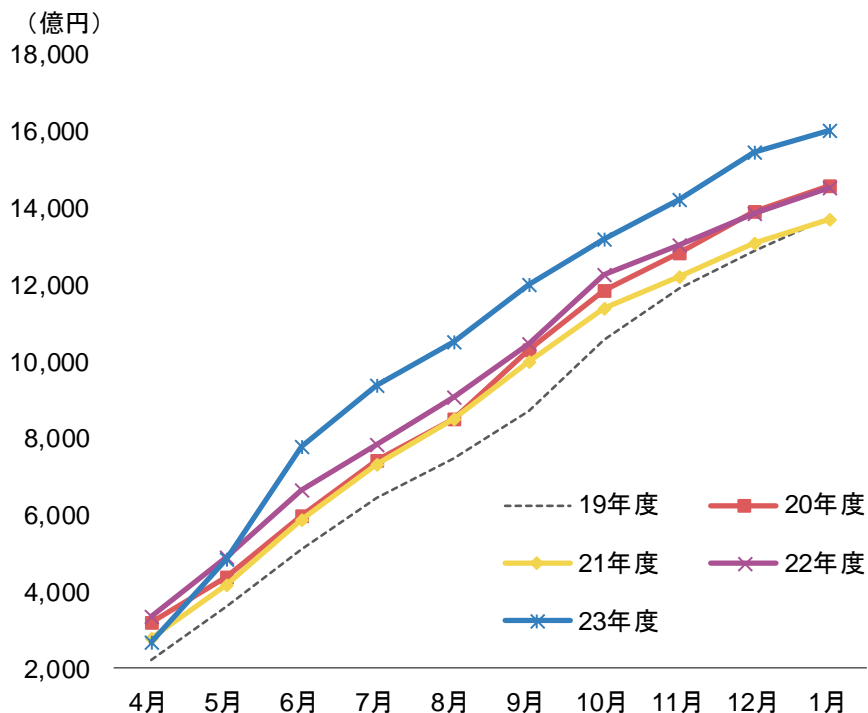


(出所)東京商工リサーチ「全国企業倒産状況」

公共投資

1月の公共工事請負金額(年度累計)は、前年比+10.5%の1兆6,059億円。近年では高めの水準となっている。

公共工事請負金額(年度累計)



(出所)東日本建設業保証「公共工事前払金保証統計」

ご利用に際して

- 本資料は、執筆時点で信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客さまの決定、行為、およびその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客さまご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず、出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。

(お問い合わせ)

調査・開発本部 調査部 塚田

TEL:03-6733-1626 E-mail:chosa-report@murc.jp

〒105-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー